

12. 根来健一郎 (1912) 日本の無機酸性水域に於ける藍藻 *Cyanidium caldarium* (Tilden) Geitler の生活状態に就いて. 陸水學雜誌 12 : 41-42.
13. ——— (1943 a) 群馬縣草津温泉の藻類植生. 植物學雜誌 57 : 302-382.
14. ——— (1943 b) 硫氣孔原植物の研究. 生物學之進歩 No. 1 : 178.
15. 岡田要之助 (1939) 八甲田山酸ヶ湯温泉附近の温泉産藍藻. 生態學研究 6 : 10, Fig. 14-3.
16. 太秦康光 (1948) 水の誕生. 理學モノグラフ 17 輯.
17. 米田勇一 (1940) 北海道の温泉植物研究第 3 報. 植物分類地理 9 : 193, 199, 200.
18. 米田勇一 (1949 a) 同上第 4 報. 同誌 10 : 164.
19. ——— (1941 b) 同上第 5 報. 同誌 10 : 244.

### 〇化石材 *Xenoxylon latiporosum* を標準化石に推奨する (小倉 謙)

Yudzuru OGURA: Recommend a fossil wood *Xenoxylon latiporosum* as a leading fossil.

ジュラ紀産の松柏類の化石材の一種に *Xenoxylon latiporosum* (Cramer) Gothan (1905) と稱せられるものがあり, *Pinites latiporosum* Cramer (1868), *Cedroxylon latiporosum* Schroter (1889), *Araucarioxylon latiporosum* Kraus (1872), *Araucarioxylon koreanum* Felix (1887) と稱せられるものがその異名と思はれる。この材は (1) 假導管と射出髓のみから成り柔組織を缺き, (2) 假導管の放射側面に一列

の楕圓形の重縁孔が密列し, (3) 射出髓と假導管の接面に大きな卵圓形の孔紋があり, (4) 假導管内に球状に膨れた填充細胞が入っているなどを特徴とし, 比較的不完全な斷片でも容易に識別される (植物學輯報 **13**, 1944)。

この材は從來スピッツベルゲン, イギリス, ポーランド, 北支, 滿州, 朝鮮, 日本に産することが知られ, いづれもジュラ紀の産である。只朝鮮の洛東層は元來ジュラ紀とされていたが近來白堊紀とも考へられている。日本では元來石川縣能美郡桑島村の或庭石がこの種だとされているが, 庭石のこと故本當の産地が不詳であるが手取統であると考へられる。昨年同縣同郡尾口村女原の手取川床産の一斷片を入手したが, こゝは所謂手取統の本場でジュラ紀に屬し, この材はあまり良質のものでないが上述の特徴から見て *Xenoxylon latiporosum* と同定出來た。

このやうにこの化石材は他と區別し易い特徴を有し, しかもジュラ紀特産のものであるから標準化石の一つとして推奨するに足ると思ふ。

この研究は文部省科學研究費の一部で行つたもので, 昭和 25 年 4 月日本植物學會第 14 回大會で報告した。



*Xenoxylon latiporosum*  
放射綫斷面 ×250  
(石川縣手取川産)